

インピーダンス

日本共産党通研支部 <http://impedance.sakura.ne.jp>
jcp.impedance@gmail.com

No. 2700 2024年 11月 11日
定価 1部 10円



必ず憲法守り抜く 国会前 2300 人 声上げる

日本国憲法が公布されて 78 年の 3 日、総がかり行動実行委員会と 9 条改憲 NO! 全国市民アクションは、国会前で 11・3 大行動に取り組みました。

総がかり行動実行委員会共同代表の染裕之さんは「石破茂首相は改憲をめざすと明言した。市民が改憲に反対する野党を支えよう」と訴え、日本共産党の小池晃書記局長は、総選挙で自公の過半数割れは市民が声を上げ続けた結果だとして「必ず憲法を守り抜く決意を固め合おう」と呼びかけました。



裏金非公認 2000 万円 「しんぶん赤旗」スクープは どうやって生まれた

「裏金非公認候補に 2000 万円」のスクープを生んだのは、「しんぶん赤旗」記者達の果敢な挑戦です。

無所属で立候補した埼玉 6 区候補者のポストターに「自民党支部長」と書いてあることを発信した共産党の同区候補者の X への投稿です。これを読んだ「赤旗」記者は各都県の選管に

電話して、非公認になった候補者 11 人のうち 8 人が支部長のままであることを確認しました。

もうひとつは自民党の森山幹事長が公認候補に 2000 万円を振



込んだ「支部政党交付金支給通知書」を「赤旗」が入手しており、「非公認候補の支部にも配られたのではないかと」と記者が考えたこ

う別の文書が送られていたことを把握しました。

二つのきっかけと、共産党の草の根の力、記者の諦めない努力が大スクープに発展したのです。

職場から

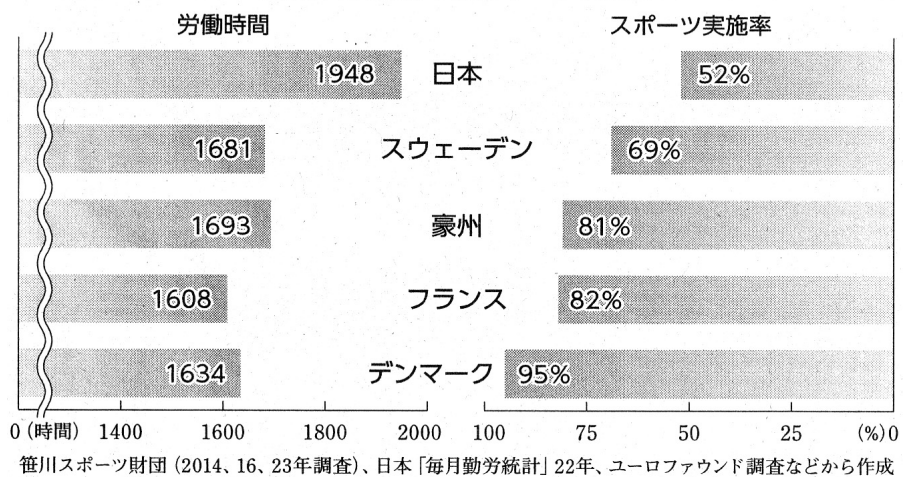
米大統領選挙、トランプ氏再選。「驚いた。トランプ氏が勝った」「物価高騰や生活苦のなかで、現状打開を掲げるトランプ氏に期待したようだ」移民問題



や国民分断をあおる戦略で支持を広げた「ガザ対応では若者は民主党に失望している」「トランプ氏は米軍第一主義だ」「日本は米軍と一体の軍拡路線はやめる

今週の数字

各国の労働時間とスポーツ実施率



べきだ」

× 神宮外苑の樹木の伐採開始。「形式的な事業者の説明の後、始まった」「東京都は容認している」「現場では伐採に反対する人たちが抗議の声をあげた」「都の幹部が三井不動産に天下りしているとのこと」

× 米ボーイング社のストライキ、4 年間 38 %

賃上げで妥結。「労組がストライキの成果だと表明した」「ストライキは 9 月から 50 日余り続けられてきた」「長期のストを続けられたのはすごい」

× 日産自動車世界で 9000 人の削減を発表。「上半期は 90 % の減収だった」「北米や中

【ついでに】

選択的夫婦別姓など差別撤回を 動かぬ日本に厳しい勧告

国連女性差別撤廃委員会

国連の女性差別撤廃委員会が10月29日、日本政府に対しジェンダー平等の取り組みを促す総括所見を発表。選択的夫婦別姓の導入は4度目の勧告です。「いかなる措置も取ら

環境整備を求めました。政治分野では男女共同参画推進法の強化を求め、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ(性と生殖に関する健康と権利)について人工妊娠中絶薬の費用引き下げや、母体保護法の配偶者同意要件の削除を要求、また在日米軍兵士の性暴力防止と加害者への処罰、など広く女性差別の改善を求めています。

【職場からの続き】

国で販売不振になっていく「人員削減の時期や地域は明らかにして



いない」

× リニア新幹線工事現場近くで水と気泡。「町

田市の住宅の庭で水と気泡が噴出した「地下ではシールド工法によるトンネル掘削が行われている」「JR東海は原因を究明し、住民に説明するべきだ」

× 郵便料金値上げで、悲鳴。「封書を出そうとしたら大幅に上がっていたので驚いた」「郵便でつながっている団体は困っているという」

「年賀状、どうするか?」

× 「7日、東京で木枯ら

し1号が吹いた「札幌では初雪だ」「一気に夏から冬だね」「長雨の秋で、運動会を11月にやる学校もある」

× インフルエンザ、全



特別展「鳥」

ゲノム解析が解き明かす新しい鳥類の系統

国立科学博物館
2025年2月24日まで

鳥の起源とその進化の過程を紹介し、さらに、ゲノム解析による最新研究で解き明かされた進化系統仮説にもとづき、貴重な鳥標本を数多く展示している。

読書

Dr.カキゾエ歩く処方箋

垣添忠生著
朝日新聞出版
1800円＋税

垣添忠生氏はがんの研究生活の後がんセンター総長、現在日本対がん協会会長。「がんサバイバーを支援しよう、3・11を忘れない」と

書いた幟旗を持って、昨年81歳で「みちのく潮風トレイル10000km」を歩いた記録がこの本。各所で3・11サバイバーと話した内容に迫真の力がある。所々に哲学者の言葉、本のエキスが出てくる(氏の読書量が想像される)。歩いて見聞きした「防潮堤論」は圧巻、「映画論」も興味深い。研究者としての素養とは、を学んだ。(N)

第7次エネルギー計画に市民の声を 国の議論と「大きな乖離」 市民団体が会見で発表

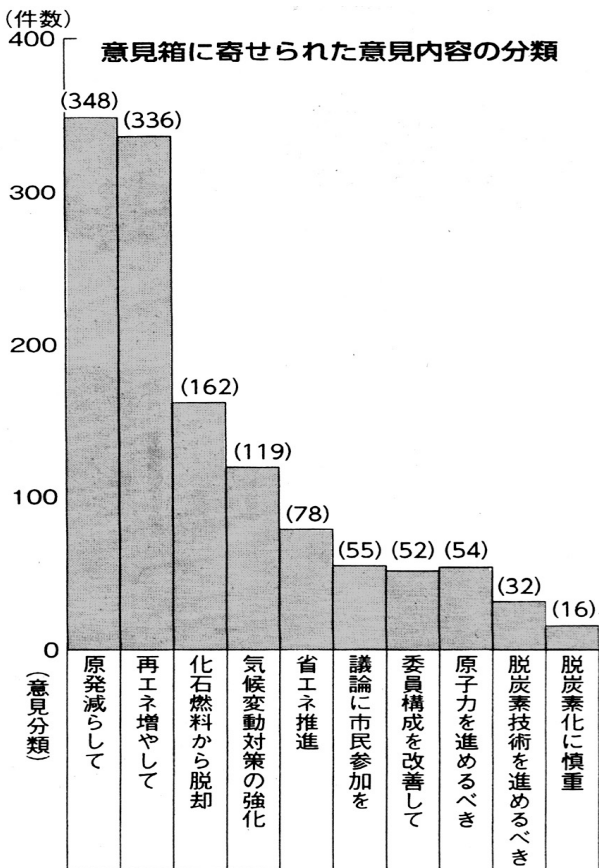
自然エネルギー

100%の社会などをめざす市民団体「ワタシのミライ」は、国の第7次エネルギーについての経産省に寄せられた意見を分析、のべ

638件の意見のうち、「原発減らして」「再エネ増やして」の意見が圧倒的多数を占めたと

います(図)。意見を寄せた世代は40代が最も多く、50代までが半数でした。審議会で進

む議論とは「大きな乖離がある」と指摘しました。



※一つの意見に複数の意見が含まれる場合はそれぞれカウント(意見資料をもとに作成)